

第一回摂津市デリバリー方式選択制中学校給食検討委員会

開催日時 平成25年8月14日(水) 午前10時00分開会

午前11時30分閉会

開催場所 摂津市役所7階 講堂

出席者 尾崎 美穂 委員
敷本 悟 委員
筒井 豊 委員
竹田 浩昭 委員
西村ゆり子 委員
濱西 加代子 委員

事務局 総務部長 山本 和憲
総務課長 岩見 賢一郎
総務課長代理 鈴木 誠
保健給食係長 森崎 孝弘
保健給食係主事 寺嶋 和
保健給食係栄養士 川村 佳菜

事務局

定刻の時間となりましたので、第1回摂津市デリバリー方式選択制中学校給食検討委員会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、当検討委員会の設置にあたりまして委員をご承諾いただきありがとうございます。委嘱状及び辞令の交付につきましては、略式によりそれぞれのお席に配付させていただいておりますのでご了承ください。それでは開会にあたりまして、教育総務部長の山本よりごあいさつ申し上げます。

山本部長

暑い中、またお盆という時期にお集まりいただきありがとうございます。本市では平成27年度よりデリバリー方式選択制で中学校に給食を導入するという決定をいたしました。今年度はそれにあたり様々な準備がございます。まず、どのような手法を用いてデリバリー選択制を実施していくかということから検討してまいります。今年度の予算といたしましては学校現場の改修にあたる設計の予算を計上しております。デリバリー選択制の手法によって学校現場を一部改修する必要がございますので、その準備にあたりまして、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、今年度と来年度にかけて準備ならびに事業を実施してまいりたいと考えております。お忙しいとは存じますが、場合によりましては集中的にお集まりいただく場合もございます。ご理解をいただきましてご協力をお願いしたいと思います。簡単ではございますが、開会のごあいさつとさせていただきます。

事務局

それでは引き続きまして、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

各委員自己紹介 (省略)

事務局

なお、保護者代表の藤井華子様については本日、都合が合わず欠席となっております。また、学校教育課岡部課長についても本日、公務と重なり欠席となっております。

それでは、会議進行にあたりまして、摂津市デリバリー方式選択制中学校給食検討委員会設置要綱に基づき本検討委員会の委員長の選出を行いたいと思います。委員長につきましては、要綱第5条におきまして委員の互選により定められておりますが、どのよ

うにさせていただきますでしょうか

筒井委員

給食会会長の敷本先生にお願いしたいと思うのですが。

事務局

敷本校長ということでご提案ございますけれども、ご意見他にございますか。

委員

異議なし

事務局

異議なしということで、敷本先生に委員長をお願いしたいと思います。敷本委員様、議長席にお席を移動いただきまして委員長就任のごあいさつをお願いいたします。

委員長

中学校給食実施に向けて時間の余裕はそんなにありませんけれども、提供等よりよいあり方についてそれぞれの立場からご意見を出していただいて活発に論議を進めていきたいと思えます。どうぞご協力をお願いいたします。

事務局

続きまして、要綱に基づき委員長に事故があった場合の職務代理の指名を委員長にお願いしたいと思います。

委員長

筒井校長先生にお願いしたいと思います。

事務局

よろしいでしょうか。

筒井委員

はい。

事務局

議事に入ります前に、本日の検討委員会の終了時刻でございますが、午前11時30分とさせていただきますので、ご協力よろしくをお願いいたします。それでは、委員長進行をお願いいたします。

委員長

それでは、次第に沿って進めてまいります。議事①の「会議の公開」についてと、ありますが、委員の皆様、いかがでしょうか？現在、大阪府下の多くの自治体で中学校給食の導入あるいは実施がなされており、非常に注目されています。この点を考慮しても、特に

非公開とする必要はないかと思えます。公開が前提であると思えますが、委員の皆様どうでしょうか？

委員 異議なし

事務局 会議の公開を行うということで、傍聴その他議事録の公開についてはどうでしょうか？一般的にはどうでしょうか？事務局のほうで何か意見はありますでしょうか？

事務局 昨年度の検討委員会は実施方式を決めるという非常に大きなテーマがありましたので、傍聴の許可及び議事録を市役所のHPで公開する形を取っておりました。今回の検討委員会においては中学校給食の運用面について協議するわけですが、前回と同様に傍聴及び会議の要点録の公開で問題ないと考えます。

委員長 委員の皆様はどうでしょうか？何かご意見はありますでしょうか？

委員 異議なし

委員長 それでは会議の公開については、傍聴及び会議の要点録の公開とさせていただきます。

それでは、次の議事に入りたいと思います。議事②「これまでの経過と今後のスケジュール」についてですが、事務局より説明をお願いします。

事務局 (説明省略)

「中学校給食導入事業におけるこれまでの経過及び資料」及び資料8を利用して、経過を説明

資料9を利用して、府下のデリバリー方式中学校給食実施状況の説明

資料10を利用して、近隣視察自治体（吹田市・大阪市・茨木市・高槻市）の実施状況及び提供方法について説明

資料11を利用して、提供方法の比較説明

弁当容器サンプルを提示し説明

事務局

資料の説明をさせていただきましたが、本日の論点になるべきことを確認したいと思います。委員の皆様には協議していただくポイントとしましては、副食を冷たい状態で提供するか、あるいは温かい提供を考えるのか。主食と副食の容器以外の汁物等の容器を加えるか加えないか。この2点について委員の皆様には意見交換をお願いしたいと思います。

委員長

資料11まで説明をしていただきました。
デリバリー方式中学校給食の実施について、最も重要なテーマの1つが提供方式です。提供方式については事務局よりいくつかのパターンが紹介されましたが、衛生管理、食育、学校での運営、費用面など様々な要素があると思います。特に成長期の子どもの食の在り方や保護者の思い・学校運営における現場の思い・市の財政的な状況等がございます。これらを踏まえて、提供方式について各委員の立場からご意見頂戴したいと思います。今ありましたように、副食について、汁物等の一品を加えるかどうかについて、この辺も踏まえてお願いいたします。

尾崎委員

基本的に他の市もお弁当の箱の種類は1種類なのではないでしょうか。例えば、中学生はかなり体格が変わるので、たくさん食べる子もいればそうじゃない子もいてその差が小学校より激しいです。保護者の方から話を聞くとご飯の量を気にされていて、女の子は食べられなくて毎日たくさん残してしまうという罪悪感がある子もいれば、また残すことが当たり前になるのが嫌だというお母さんもいます。男の子はごはんの量が足らないと結局追加でおにぎりを持って行かないといけないというがあり、保護者の方は量のことを一番気にされていました。容器が1種類だけというのが気になります。

委員長

弁当箱を見ていただきまして、個人差に対応するという柔軟性はどうか。事務局意見ありますか。

事務局

給食として提供する場合、エネルギー量の計算はきちりとしております。その点と中学校という成長面におけるバランスというのが保護者の方から出た意見だと思います。全員喫食の場合でしたら

そういった対応をしている自治体もありますが、選択制では府下ではなく関東方面で一部あります。おかわり用の食缶という形で提供している自治体もありますが、選択制となると喫食率によってそういったことが可能かどうか、判断としては難しい点はあるかと思えます。

尾崎委員

例えば、容器へのごはんの詰め方によっても多少量が変わりますね。同じ容器でも詰め方を軽くしてもらってごはんは「小」の選択ができるとか、しっかり詰めてもらって少し重めのごはんの選択ができるとかの柔軟性はできないでしょうか。同じお茶碗でもつぎ方によってグラムが変わってくると思います。うちの子は男の子でお弁当を持っていっていますが「とにかくごはんをしっかり詰めてくれ。」というので、詰めれば詰めるほどけっこうたくさん入るんです。でも「今日はクラブがないからちょっとでいい。」というときに軽く詰めるとだいぶ量が違うんです。数日前が大変であれば1週間前に予約できるようにして、せめてごはんの量だけでも、同じ容器でも内容を変えていただいたらありがたいと思います。

事務局

どういう方法になるかわかりませんが、何事においても直前で変えるというのは現実的には業者からしても不可能だと思います。費用面のところで、一般の店でしたら「大」が100円「中」が80円などとしていますが、そのような値段の設定はできないと思います。どの大きさでも一律に頂戴することになるかもわかりません。

事務局

栄養面でいうと、個々で栄養を評価してそれぞれに合わせて給食を提供するということはどうしても難しいので、中学生の必要栄養量の平均値をもとにごはんの量を決めています。なので、どうしてもごはんの足りる子足りない子がでてきてしまうと思います。理想は個々に合わせたものを提供してあげたいのですが、それが現実どこまで対応できるか、また量が変わっても同じ給食費をいただくことなど問題は様々ありますので、そういったところを検討する必要があるかと思えます。

委員長

成長盛りの子どもですので、もしよりよく提供できるようであれば検討していただきたいと思えます。

竹田先生は以前、吹田市の中学校で勤務されていたかと思いますが、デリバリー方式の給食の経験はありますか？

竹田委員

はいあります。私は平成19年から3年間吹田市立豊津中学校に赴任しておりました。資料10にありますように、平成20年度3校のうちの1校が豊津中学校でした。このような会議や献立委員会というのにも教頭会代表として参加しました。お弁当を毎日作って子どもに食べさせてあげたいけれどなかなか大変な状態もあるし、栄養のバランスを考えて給食を実施して欲しいという保護者からの声がありこの動きとなったと聞いております。小学校は全員が同じ給食をいただき、中学校ではやっぱり保護者のお弁当を持ってきて、ということになっていました。ただ、家の冷凍庫の引き出しを開けたら娘や息子が食べるお弁当用の冷凍食品がたっぷり詰まっているという現状が我が家にもあります。デリバリー方式選択制の中学校給食は、学校給食法に基づき栄養教諭が献立のカロリー計算等もされている素晴らしい給食だと思います。資料には喫食率が20年度30%とありますが、実際に実施してみて豊津中学校は60%を超えたこともあります。魚の日や野菜の多いときは少なかったです。前もっておいしそうなるカラーの献立表がクラスに掲示されて、それを見て子どもたちが選ぶという方式でそれがまた楽しい時間でもありました。ハンバーグ、カレー、ピピンバ、ピラフなどのときは喫食率がすごく高かったように思います。子どもたちは時間になると1階の給食配膳室へ食券を持ち列をなしていました。注文方法はインターネットやマークシート、コンビニ振込みなどがありました。新しい方式、そしておいしい給食がいただける、保護者も安心して食べさせられるというのでした。3年間のうちの2年間給食と付き合ってきたんですけれど、すごくいいやり方かなと思います。この会でいろいろ検討されますけれども、育ち盛りの中学生が安心して食べられる給食を提供するすごくいい機会ではないかと思います。私の感想としてお話しさせていただきました。

委員長

安全なという言葉が出ましたが、西村先生は栄養教諭の立場からどうでしょうか。

西村委員

給食として、外せないことは衛生管理です。温度管理が不適切で

あると菌が繁殖し、栄養のあるおいしいお弁当を提供したとしてもなんらかの事故がありますと大変なことになりますので、衛生管理は必ず必要です。それと栄養面です。給食であれば子どもたちの好きなものばかりを提供するのではなく、魚などのいろんな食材をバランスよく提供し、育ち盛り子どもたちが元気で丈夫な体で学校生活を過ごせるように考えなければいけません。

ご家庭からお弁当を持って来る生徒以外で、コンビニ等で買ったりする生徒もいると思います。給食が魅力的なものであるということ考えた上で、コンビニのお弁当と違う面と言えば、汁物等をつける方の選択をすればいいと思います。衛生面から考えるとおかずを温めたまま65℃以上を維持して持って来るのは困難だと思いますので、せめて汁物だけでも温かいものが1つあるだけでもだいぶお弁当としての雰囲気も変わってきますし、食べた感じも変わってきます。温かいものが提供できるというのは、コンビニで買ってくる生徒や家庭からお弁当を持って来る生徒にとっても魅力的ではないかなと思っています。せっかく給食として導入するのであれば、市としての目標として喫食率もあるかと思いますが、できるだけ多くの生徒が利用できてなおかつ栄養的な面もしっかりとなった給食という意味であれば、汁物形態をつけるといいと思います。運ぶときに安定感のところで心配はあるかもしれませんが、運ぶのは中学生なので気をつけて運んでもらって、容器も別の容器があるのであれば検討の視野に入れていただくという形で、より魅力的な給食といった意味では、汁物容器のついた形態の給食がいいのではないかなと思っています。

委員長

汁物にもふれていただきましたけれども、濱西先生、食育担当、中学校としてはどうでしょうか。

濱西委員

汁物をつけることは賛成です。震災に遭われた人の話を聞いたことがあります、物資はパンやおにぎりがたくさん届くけれども温かいものは届かないということで、温かいものを食べたときに喜びを感じたという話を聞いたことがありますので、なにか1つでも温かいものがあるとすごくおいしさを感じるのではないかなと思いますので、できれば汁物はあった方がいいのかなと思います。副食を温かくか冷たくかというところは、冷たいものも温かくなってし

まうのはあまりよくないかなと思います。温かく食べるものは温かく、冷たいものは冷たく食べるという方がよりおいしいと感じると思いますので、副食は冷たくても温かい汁物があればいいのかなという風に思いました。

委員長 筒井先生いかがでしょうか。

筒井委員 私も今業者の弁当を食べていますが、汁物を飲むか飲まないかで違いますね。見た目も違いますし、おいしく感じると思います。副食を温かく冷たくというところだけで考えると、温かい方がいいように思いますが、そのためにデメリットといいますか大掛かりなことをしないといけないと考えると、副食は冷たいそのまま汁物をつける方がいいと思います。中学生なので汁物があっても運べるとは思いますが、すべての容器をはめ込んで揺らしても落ちないような容器があれば、お金はかかりますが一番いいのかなと思います。

委員長 他にご意見ありますか。

事務局 質問してよろしいでしょうか。竹田委員が以前に豊津中学校で中学校給食を経験されていますが、ごはんの量などについて生徒や保護者からのお話はありましたか。

竹田委員 確かにありました。尾崎委員がおっしゃったように、ふわふわに詰めて1個か2個かという方法も検討委員会で提案しましたが、やはり難しいということでした。生徒たちがやっていたのは、小学校の給食と同じように、ごはんが多いと思う子は教室で食べる前に他の子にあげていました。「こんなにたくさん食べれんから私のこれあげる」など言いながら、おかずのやりとりをしていました。バランスが崩れるということになってしまいましたが、私の経験ではそういうこともありました。ごはんに関しては生徒間で調整していました。

事務局 竹田委員が食べてみた感想はいかがですか。

竹田委員 最初は「味がおいしくない」という感想もありましたが、でもだ

んだんと工夫してくれました。私たちは校長先生と検食があったので、注文していました。おいしかったです。ボリューム的には多くも少なくもなくよかったかなと思います。おかず入れが下で、ごはんが真ん中でした。温かいごはんに冷たいおかずでしたが、そんなに違和感なくおいしくいただいていたいました。

委員長

他にご意見ございますか。

尾崎委員

1ついいでしょうか。量の話ですが、保護者から「1人2個頼んでもいいですか。」とお話もあったんです。何人かの保護者に電話して意見を聞いたのですが、「本当に足りないと思うので2個頼んでもいいのかを聞いてきてほしい。」と実際に言われました。それくらい食べる量には違いがあるので。

あと、「お肉をとにかく入れてほしい。」という意見もすごくあります。今のお子さんはけっこう好き嫌いが多いと思うんです。小学校の子どもがいるので、参観のときに必ず給食を見に行くんですが、今は昔と違ってアレルギーのことやいろいろあると思うので、給食では箸をつける前に自分でおかずを減らしに行くんですね。おかずによっても違うと思うんですが、減らすために長蛇の列で並ぶんです。自分で減らすのすごいき量を減らす子もいます。「おかずどこにあるの？」っていうくらいの量を減らす子もいます。資料を見て、中学校の生徒自体はお弁当の方がいいっていう意見が多いのは、やっとな給食の好き嫌いから逃れられて大好きなお弁当を食べられるようになる。嫌いなものやったら残せるし、好きなものだけを入れてくれるっていうのが現状だと思います。栄養面とかカロリー一面とかあると思うんですが、少しの量でもいいのでお肉を入れていただければありがたいです。お肉といっても牛肉だけじゃなくって、他の鶏だろうと何だろうとお肉に対しての執着っていうのが中学生にはあると思うので、それを入れてもらおうとありがたいというのと、それと同時にやっぱり魚も摂ってもらいたいというのも親の心なので、そこにちょこっと魚をのせてもらおうこともしていただきたいなというのもあります。魚メインとなると頼む子が少ない気がします。親が横にいて「食べなさい」と言うとき食べるような状態で、小学校の給食では親がいないのでびっくりするほど行儀悪く食べています。家とは違うんです。それは中学校になっても一緒だと思

うので、難しいことだと思いますが、好きなものとそうじゃないものをバランスよくしながら、大人の技で入れてもらって食べてもらえたらなと思います。

委員長

尾崎委員からいくつかの要望がありました。

事務局

宿題として持ち帰らせていただきます。

事務局としても吹田市の視察に行きました。吹田市ではあまり食べないと思われるような食材を入れるときには、メニューの名前を工夫されたり彩りを工夫されたりというようなことされていると聞いております。「魚のなんとか」と書いたらあまり頼まないのも、メニューの外出しの方法も工夫されております。本市でも先進市を参考に工夫したいと思います。メインを2つ欲しいと言うのは現実的にはハードルが高いかも知れません。

尾崎委員

たぶん保護者の方が言っているのは、どれくらいの量でどれくらいのお弁当かっていうのが全く検討がついていないと思うので、例えばおかずがいっぱいあるのであればごはんを2つ頼めないのかとか、そういった感じの感覚だと思うんです。

事務局

西村先生、現実的には栄養面からどうですか。

西村委員

確かに中学校になればクラブ活動もあり運動量もだいぶ増えてくるので、たくさん食べるお子さんもいると思います。厳密に栄養量を出すには、その子の身長、体重、活動量をもとにその子に必要な栄養量というのが出るんですが、実際のところそれを一人一人出すこともできませんし、その量に合わせるができないということで、日々変動はありますが基準の量で献立を立てて栄養価を揃えるということになっています。ごはんを2つというのは、給食でいう「おかわり」ができないことから、個人的に「おかわり」を用意しておくということによって量を確保する形になるかと思います。ただ栄養面で言いますと、ちょっと2つは食べすぎかなと思う部分もあります。確かに保護者の皆様からしますと、お昼ごはんを食べて午後の活動に臨むのに、全然足りないお腹が減った状態で午後の勉強やクラブに臨まれるのは不安を感じられているという気持ち

はよくわかります。確かに量の面とか不安があると思います。教育委員会の皆様は試食に行かれたということで、竹田先生は吹田で食べられていましたが、私達他の委員は一度も食べていないので、この提供方法を決定するには間に合わないかもしれないですが、可能であればどこかの市の中学校給食を試食するという機会ができるかどうかを教育委員会で検討していただいたらどうかと思うのですがいかがでしょうか。

委員長 西村委員より試食の提案がありましたけれども事務局いかがでしょうか。

事務局 今回の8月・9月の中の日程であると難しいかもしれませんが、それ以降において日程調整のうえ試食会について開催は可能であると考えます。できれば一度実物を見て食べていただいたらいいかと思います。

委員長 試食会につきましては事務局に日程調整していただくということで開催する方向でよろしいでしょうか。

委員 異議なし

委員長 ではよろしくお願ひいたします。
提供方法等細かい問題も出てきますけれども、今日の大きなポイントである「副食について」「汁物等の1品を加えるかどうか」の意見等もだいぶ出て方向性も絞られてきましたけれども、特にご意見はないでしょうか。

委員長 今の方向としては、「副食については冷たい状態で提供する」それから「汁物等については温かいものとして1品加える」ということで意見が多いのでよろしいでしょうか。

委員 異議なし

委員長 では続きまして、議事④その他ですが、事務局より説明をお願いします。

事務局

議事③で提供方法に関して、委員の皆様からある程度意見をいただけたと思います。本日欠席されている委員の皆様もおられますので、その点を含めて次回で一定の結論を出していただきたいと思いますので、また資料を読み直して疑問点等ありましたら次回発言していただけたらと思います。

次回につきましては、この提供方法についてが1点と、残った時間で各中学校の配膳室に関する協議、意見交換に入りたいと考えておりますのでご了承ください。

試食会の日程につきましては改めてご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

委員長

それでは本日はこれで終了させていただきます。

